

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

群馬県立藤岡中央高等学校

日 時:平成 28 年 7 月 8 日(金) 5 校時(13:20~14:10)

場 所:音楽室

クラス:普通科 1 年 5 組

(男 19 名、女子 21 名、計 40 名)

指導者:教諭 井上 春美

1 題材名 創る、奏でる、ボディーパーカッション

○ 教材

- ・ 高校生の音楽 1 P32~34.65 (教育芸術社)
- ・ 補助教材 ワークシート 3-1~6

○ 学習指導要領の内容における位置付け

本題材は学習指導要領の A 表現より

(2) 器楽

イ 楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。

エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏すること。

(3) 創作

イ 音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること。

エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して音楽をつくること。

を指導するものである。

2 題材の目標

- (1) クラップやステップ、効果音などの音素材の特徴を生かし、「反復」「変化」「対照」などの構成を工夫し、イメージをもって音楽をつくる。
- (2) 音楽を形づくっている要素の「音色」「強弱」「速度」「構成」を知覚し、それらの働きを感受しながら音楽をつくり、音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。

3 題材の考察

(1) 題材設定の理由

創作は、音を組み合わせる音楽をつくり、表現しようとする意欲を育むことがねらいとされている。「音楽を形づくっている要素」を知覚し、その特徴を生かして音楽をつくること、創造的な音楽表現の能力を高めることにつながる。本題材では、「音楽を形づくっている要素」の「リズム」を用いて、身近でシンプルな音素材であるクラップ、ステップの「音色」を変化させて楽曲を創作する。グループ全員が創作の過程を一緒に取り組めるように、作曲の過程において偶然的な要素が入る「チャンス・オペレーション」作曲法を用いる。オセロ対戦表のドット柄を音符に見立てて創作することで、興味関心が高まり、生徒の好奇心を刺激する作曲法になると考える。

教科の特性上、開放的で受容的な環境を心がけているが、生徒が主体的・協働的に取り組み、クラス内の新しい人間関係の構築につなげたい。自分の意見を持ち、お互いに伝え合い、グループで考えを深めながらリズム創作し、生徒の思考に働きかけるように課題を提示する。学習活動の中で基礎基本の定着と柔軟な思考力を養い、他の人の思考や活動を受容的に受け止め、能動的な活動を評価する雰囲気にしていきたい。

また、グループで発表しお互いに鑑賞し合うことで、発表者としての立場や他の表現を受容する態度を養う。生徒一人一人が自分の能力を自覚し、自ら課題を見出せるような学習活動を展開する。以上のことから、題材として設定した。

(2) 生徒の実態

ア 音楽への関心・意欲・態度

平成27年度より普通科編成に伴い、音楽Iを1学年全員が履修している。本クラスは1学年の中で、音楽への関心、意欲が高いクラスである。また、新しいことを学んだり挑戦したりする雰囲気クラス全体にあり、意識の高さを感じる。友人との意見交換はできるが、グループの中で自分の考えを伝え、意見をまとめて協力しながら音楽をつくるには、手立てや支援が必要である。

イ 音楽表現の創意工夫

「音楽を形づくっている要素」の「速度」「強弱」は知覚しやすく、どのように働いているかを感受しながら表現につなげることはできる。「音色」「構成」は各個人で知覚に差がある。身近なクラップとステップの音素材で音色をつくり、「反復」「変化」「対照」の技法で構成することによって知覚に導く。自分たちで一から楽曲を創り上げることで、表現意図をもって音楽表現を工夫するようになると考える。

ウ 音楽表現の技能

歌唱表現では「音楽を形づくっている要素」を知覚し、主体的に表現していた。全体的なバランスや一体感のある響きなどより良い音楽表現につなげる技能は定着していない。自分たちが考えた楽曲を記譜し、全体が見やすく縦横のつながりを知覚しながら演奏できるように楽譜を作成し、楽譜から音楽表現をイメージし、創造的に表す技能につながるよう考えている。

(3) 教材選択の理由

リズムアンサンブルの教材に、「クラッピング・カルテット」、「クラッピング・アンサンブルをつくろう」がある。この2つの内容を融合させた教材を作成した。

ワークシート①は、「音楽を形づくっている要素」を知覚し、音楽の土台となる「リズム」を創作することを確認する。作曲方法として2つの偶然性の音楽を示し、ジャンケン対決やジョン・ケイジの「4分33秒」で実際に体験する。また、動画で「We will rock you」、「Clapping」を鑑賞し、作曲技法である「反復」「対照」「一斉」「変化」を知覚し、それによってどのような効果が生まれるかについて考える。この学習によって、何を材料にしてどのように作曲し、どのような効果が生まれるのかイメージをもつことができると考える。

ワークシート②は、ドット柄をリズムに見立て音符にする。○●柄をリズム譜にすることで、オセロ対戦の絵柄をリズム譜にすることにつなげる。

ワークシート③は、各グループでオセロ対戦を行い、その対戦表の絵柄をリズム譜にする。オセロ対戦は誰でもできる馴染みあるゲームで、その対戦表の絵柄からリズムをつくり音楽を構成していくことで、関心・意欲が高まると考えられる。動画「Clapping」、「Body Percussion」、「Stomp」を鑑賞し、クラップ、ステップ、その他のパフォーマンスから多彩な音素材を見出す。グループで共有し、自分たちがつくる楽曲に反映させるようにする。

ワークシート④は、一斉に奏でるグループリズムと自分のパートリズムに、鑑賞を参考とした多彩な音素材をつけて「音色」に変化をつける。また、「構成」「強弱」を動画から知覚し、楽曲づくりにつなげる。鑑賞しながら、視覚的要素、聴覚的要素で題名を考え、自分たちの楽曲のイメージをもてるようにし、表現意図につなげる。

ワークシート⑤は、楽曲を記譜する。その際、楽曲の全体が分かるように全パート記譜し、音の縦横のつながりが明確になるように留意して取り組むようにする。

以上の過程を経て、「音楽を形づくっている要素」の特質や働きを知覚・感受し、表現したい音楽を思考・判断しながら楽曲をつくる教材として作成した。

(4) 題材の系統と他教材との関連

本題材は、「音色」「速度」「強弱」「構成」の働きを変化させてリズム楽曲を創作する題材で、音楽Ⅰでは、はじめて創作に取り組む。これまでに「音楽を形づくっている要素」の中の「速度」「強弱」「構成」を歌唱の題材で扱ったが、今回は器楽、創作の題材で「音色」に着目して取り組む。創作した音素材の特質や雰囲気の違いなどに関心をもって、楽曲のうえでどのような働きになっているかをイメージし、表現意図をもって創造的に表すようにしたい。

本題材以降、器楽と創作を関連させながらギターコード創作の題材につなげていく予定である。ギターの様々な奏法によって奏でられる「音色」を知覚・感受し、「旋律」「テクスチャ」「リズム」を重ねるアンサンブルに取り組む。コードが「テクスチャ」の役割を果たし、その「リズム」を変化させることで、曲の表情や雰囲気に変化が生まれることの面白さを味わう。学習指導要領の音楽Ⅰの目標である、「生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む」につながることをねらっている。

本題材の音素材の特徴を生かす「音色」は、ギターの様々な奏法によって生みだされたり、曲想にあった発声で工夫したり、音の世界では大切にしたい要素である。それが音楽表現へとつながっていくように指導していきたい。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>①音素材（クラップ、ステップ、効果音など）の特徴や、反復、変化、対照などの構成に関心を持ち、イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②音色、速度、強弱、構成の働きの変化に関心を持ち、イメージをもって楽曲をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>①音楽を形づくっている要素の音色、速度、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じようとしている。</p> <p>②音素材（クラップ、ステップ、効果音など）の特徴を生かして、反復、変化、対照などの構成を考え、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。</p> <p>③音色、速度、強弱、構成の働きを変化させることによって生み出される音楽の表情や雰囲気などを感じ取り、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように楽曲をつくるかについて表現意図をもっている。</p>	<p>①音素材（クラップ、ステップ、効果音など）の特徴や、反復、変化、対照などの構成を工夫した音楽表現をするために必要な創作の技能を身に付け、創造的に表している。</p> <p>②音色、速度、強弱、構成の働きを変化させて、楽曲をつくるために必要な創作技能を身に付け、創造的に表している。</p>
<p>③クラップ、ステップ、効果音などの音色や奏法の特徴に関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>④音色、速度、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、クラップ、ステップ、効果音などの音色や奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p>	<p>③クラップ、ステップ、効果音などの音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表している。</p>

5 指導と評価の計画（8時間）

次	時	○学習のねらい・学習活動	題材の評価 規準とその 関連	評価方法等
第 1 次 (1) 5	1	○本題材の学習内容を知り、明確な目標をもつ。 1. 音楽の諸要素を理解し、本題材で創作する要素と作曲方法を理解する。 ・音楽の諸要素について考え、その中の「リズム」を創作することを知覚する。 ・2つの作曲方法を理解し、チャンス・オペレーションの作曲方法を体験する。 ・鑑賞から曲中でリズムが「反復」「一斉」「対照」「変化」していることを知覚し、その効果を考える。	関 - ①	【観察】 【発言】 【ワークシート】 【観察】 【ワークシート】
	2	○ドット柄からリズムを創作し、4つの技法を組み合わせ曲になることを知覚する。 2. ドット柄をリズム譜に書き替え、4つの技法を用いてリズムを創作し演奏する。 ・グループを編成し、自分のパートを確認する。 ※グループは歌唱の実技点、筆記点から、各グループレベルが同じになるように考慮する。 ・ドット柄をリズム譜に書き替える。 ・リズム譜を、「反復」「一斉」「対照」「変化」させ演奏する。	創 - ①	【観察】 【ワークシート】 【演奏】
	3	○チャンス・オペレーションの作曲法を用いて、リズムを創作し、偶然性の音楽をつくる。 3. オセロ対戦表の絵柄からリズムをつくり、1～4のリズムパートをつくる。 ・各グループでオセロ対戦し、その対戦表からリズムをつくる。 ・オセロ対戦は勝負ではなく、全列にドットがあるようにし、全体的に色とりどりの対戦表を目指す。 ・対戦表のドット柄をリズム譜にし、1～4パートをつくる。	技 - ①	【観察】 【ワークシート】
	4	○音楽の諸要素、音色、構成、強弱を鑑賞から知覚する。 4～5. 鑑賞から「音色」「構成」「強弱」の音楽の諸要素を知覚し、創作材料にする。 ・クラップ、ステップ、その他のパフォーマンスを鑑賞から「音色」の違いを各自で見つけ、グループで共有する。 ・鑑賞から作曲の4つの技法がどのように用いられているかを知覚し、「構成」を理解する。	関 - ③ 関 - ②	【観察】 【演奏】 【ワークシート】
	5	・「音色」「構成」によって生み出される「強弱」を感受し、自分たちの作品のイメージをもつ。	創 - ② 技 - ②	【観察】 【発言】

第 2 次	6	<p>○これまで創作したリズムに、音楽の諸要素から生まれる効果をねらって楽曲を完成させる。</p> <p>6. 創作したリズムに、「音色」「構成」「強弱」「速度」を入れ、ボディーパーカッションによるリズムアンサンブルをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループリズム、パートリズムの○●が、それぞれ異なった「音色」になるように、グループで共有した「音色」から奏法を考える。 ・楽曲に4つの技法を用いてA～Dの「構成」を考える。 ・A～Dを演奏し、それぞれの「音色」「構成」から音楽の特徴をとらえ、「強弱」を考える。 ・A～Dを様々な「速度」で演奏し、イメージに合った「速度」を考える。 	<p>創-②</p> <p>技-②</p> <p>技-②</p> <p>創-②</p>	<p>【観察】</p> <p>【ワークシート】</p> <p>【観察】</p> <p>【ワークシート】</p> <p>【ワークシート】</p>
	7	<p>○楽曲の表現意図が伝わるような音楽表現を工夫する。</p> <p>7. 楽曲の題名を決定し、音色や奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲に表現意図が盛り込まれた題名を考え、実技発表の時に楽曲の説明が具体的にできるようにする。 ・「音色」の違いが明確になるような奏法を工夫し、パフォーマンスをつけて効果的にする。 ・表現意図が伝わるような音楽表現をグループで工夫し、実技発表に向けてイメージをもって練習する。 	<p>関-③</p> <p>創-③</p>	<p>【観察】</p> <p>【ワークシート】</p> <p>【観察】</p>
	8	<p>○評価の観点を意識しながら実技発表し、相互評価する。</p> <p>8. 本時 チャンス・オペレーションで創作したリズムに、音楽の諸要素を用いて創作したボディーパーカッションを実技発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作したボディーパーカッションについて説明し、楽曲のイメージが鑑賞者に伝わるようにする。 ・グループで曲の始まり方、終わり方、テンポ、その他のアレンジを入れ、器乐的な表現意図のあるパフォーマンスを目指す。 ・楽曲の特徴や構成が分かるように、表現意図をもって演奏する。 ・評価の観点を理解し、他のグループの発表を客観的に評価する。 	<p>技-③</p>	<p>【観察】</p> <p>【発言】</p> <p>【演奏発表】</p> <p>【ワークシート】</p>

6 指導方針

本題材では、学習の過程を第1次と第2次の2つに分け、それぞれ以下のような学習目標を定めて進める。

「第1次」(創作) チャンス・オペレーションでリズムをつくり音楽表現に必要な技能を用いて創作する。

3～4名のグループは、中間テストの実技点、筆記点から各グループに差がないように組んだ。音素材(クラップ、ステップ、効果音など)の特徴を生かして様々な奏法の工夫により、多彩な音を音素材として創作する。「音色」「構成」「強弱」「速度」を鑑賞から知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽として全体的にまとまりのある形を生み出していく。

「第2次」(創作)(器楽) 楽曲をつくるために必要な創作技能を身に付け、音色や奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫し、イメージをもって音楽表現する。

楽曲をつくるために必要な創作技能を身につけ、「反復」「一斉」「変化」「対照」を用いてつくったりリズムに、「音色」「構成」「強弱」「速度」それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、イメージをもって楽曲をつくる。本題材は創作の題材であって、表現意図をもってつくられた楽曲を楽譜として提出した作品を評価する。また、表現意図が実際の音楽として表現する技能につなげることをねらいとして、実技を伴う発表を行う。

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- 多彩な音素材を組み合わせ、その特徴を生かした音楽表現をする。
- 表現意図を知覚感受しながら、他のグループの音楽表現を評価する。

(2) 本時の学習（8時間扱いの8時間）

	時間	○学習のねらい ・生徒の学習活動	・教師の働きかけ及び指導上の留意点 ◆学習活動における具体的評価規準【評価方法】 ◎Aと判断する場合のキーワード △Cと判断させる生徒への支援・働きかけ
導入	5分	○本時の目標を意識して学習意欲が高まる様にする。 ・挨拶 ・各グループの一斉、変化のリズムをたたく。	・創作したリズムの音色が良い音になるように工夫しながらリズムをたたく。 ・本時の目標を意識して取り組めるようにする。
展開	5分	○実技の評価観点を確認し、具体的な演奏表現をイメージする。 ・各グループで楽曲の練習をする。	・評価の観点を理解し、演奏と鑑賞のポイントがつながるようにする。 ・生徒の主体的な練習活動を巡回しながら支援する。 ・題名を含め、創作した楽曲の表現意図を説明できるようにする。 ・イメージした音楽表現をグループで工夫するように働きかける。
	35分	○創作した楽曲を、人に伝える表現に結びつけるようにする。 ・自分のグループの発表をする。 ・他のグループの発表を鑑賞し、評価表に記入する。	・良い演奏態度や鑑賞態度を意識するように促す。 ◆創 - ④【演奏発表】 ◎楽曲をどのように演奏するかについて表現意図をもち、説明が明確で分かりやすい。クラップ、ステップ、効果音などの音色や奏法の特徴が生かしている。音楽の諸要素の働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、イメージをもって音楽表現している。 △グループでつくった速度を提示する。創作した楽曲のリズム、音色、パフォーマンスからイメージをもてるようにする。 ◆技 - ③【演奏発表】 ◎クラップ、ステップ、効果音などの音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするための技能を身に付けている。 △クラップ、ステップ、効果音などの音色や奏法の変化が、聴いている人に分かりやすく演奏する。
まとめ	5分	○本時を振り返り、本題材の目的に対しての達成度を考える。 ・挨拶	・本時の実技テストで、どのように音楽表現したかをフィードバックする。 ・本題材の目標に対しての達成度を各自が考えるように働きかける。

